

No. 1302

児童博を迎えて

1979年は国際児童博覧会、開催の年。12月21日、首相官邸では児童年事業協会のメンバーが集まり、推進会議が開かれました。児童博は大阪の万国博、沖縄の海洋博と並ぶ国家的事業だけに、三原総理府総務長官も「国内的、国際的にも充実した成果をあげるため積極的に取り組んでいきたい」と語りました。開催地となる愛知県愛知郡長久手町。現在、世界にはほぼ16億の子供たちがいるといわれていますが、その子供たちの生活や環境、さらに教育などの問題について実態を明らかにし、国際児童年を期して、より広くゆたかな児童文化を創造していきたいものです、

“えと”造りの町

— 滋 賀 ・ 信 楽 —

甲賀の山々に囲れた滋賀県信楽町。焼き窯の煙突が立ち並ぶこの町は陶芸の町として古くから栄えてきた。植木ばち、庭園陶器など種々な陶芸品を造っているが特に縁起物のタヌキの置物はここを訪れる人々に親しまれている。

昭和54年、今年のエトは羊、これにちなんだ羊の置き物がさかんに造られている。手作りの作業では需要に間に合わず、作業の多くが機械化され大量生産されている、ここの焼き物にはガイロメという良質の粘土が使われる。胴体と頭の部分を別々に型で取り、溶かした粘土でしっかりと固定させる。耐火レンガと粘土のにおいで鼻をつく登り窯。階段式に並ぶいくつもの窯の中にひとつひとついねいにまだ土のかおりが残る羊の置き物を並べていく。一番下の火袋と呼ばれるところで松の割り木を燃やし、順々に上に焼き上げていく。昼夜ぶっとおして一週間、粘土の羊は信楽焼特有の緋色に変わるのである。